

始良地区茶園管理ごよみ

一 般 防 除						
月別	旬別	病 害 虫 基 幹 防 除			重 点 作 業	
		防除時期	病害虫名	薬剤と濃度、使用日数	作業名	作業時期
1	全				補完防除	赤焼病初発 赤焼病の初発確認直後、カスミンボルドー1000倍(30日)
	上				機械点検	一番茶摘採前まで 摘採期の刃研ぎやすり合わせなど点検を十分に防除機については、農薬の飛散軽減対策を徹底
2	中				春肥1回目	1月下旬 魚粕入りソイル配合 有機質肥料を主体に土と混和
	下				補完防除	2月上旬～末 クワシロカイガラムシ防除 ブルーMC 1000倍(一番茶前30日) 容器の管理はしっかりと!
3	上	上旬～中旬	カンザワハダニのみ サビダニ混発	ハロックフロアブル…… 2000倍(14日) ダニゲッターフロアブル… 2000倍(7日)	防霜対策	2月下旬～3月上旬 事前点検・試運転は十分に センサー位置確認 防霜開始 設定温度:防霜ファン 2℃、スプリンクラー 0℃から
	中				春肥2回目	2月中旬 フレッシュグリーン3号 緩効性窒素施用による作業省力化
	下	中旬～下旬	ハマキムシ類	ハマキコンN	芽出し肥	摘採30～35日前(3月上旬) 新ボンデル入り茶配合 速効性の肥料施用
4	上				液 肥	3月下旬 液肥(摘採2週間前まで)
	中	一番茶摘採期			補完防除	萌芽～1葉期 ハダニ多発時 ダニサラバフロアブル 1000～2000倍(7日)
	下				被 覆	摘採7～9日前 直接掛けで中6～8日間被覆
					一番茶摘採	4月中旬～5月上旬 茶工場と打ち合わせて計画摘採に務める
5	上	クワシロ第一世代 ふ化最盛期	クワシロカイガラムシ チャトゲコナジラミ	アブロードエースフロアブル 1000倍(14日) ※チャトゲのみ防除の場合は据刈りを行い、 10a当400%散布(ダニ噴口)	整 枝	摘採後 出来るだけ早く行い新芽の生育期間を確保 更新後は石灰窒素(ティーチャーエースなど)施用
	中	ハマキ虫類第一世代 幼虫発生期	ハマキムシ類	ハマキ天敵…… 2000倍(前日) ※展着剤加用	防風垣設置	4月下旬～5月中旬 幼木園では、防風ソルゴーを播種 10a当たり2kg程度
	下	萌芽～1葉期	炭そ病、もち病 ※黒葉腐病 ウンカ、スリップス	ダコニール1000…… 1000倍(10日)混 ※黒葉腐病は700倍 ウララDF …… 1000倍(7日) 用	補完防除	1葉期 チャノホソガ発生時 カスケード乳剤 4000倍(7日)
					被 覆	摘採6～7日前 直接掛けで中5～6日間被覆 遮光性の高い資材は、葉焼けに注意
6	上	二番茶摘採期			二番茶摘採	6月上旬～下旬 一番茶摘採から45日前後
	中				深刈り更新	摘採後 出来るだけ早く行い新芽の生育期間を確保、深くなりすぎないように注意。更新後、石灰窒素(ティーチャーエースなど)施用
	下	萌芽～1葉期	ウンカ、スリップス	スタークル顆粒水溶剤 2000倍(7日)	整 枝	摘採後 1回目:摘採5日以内、2回目:摘採14～16日後三番茶芽を切らないように遅れ芽のみ軽く整枝
7	上				夏 肥	萌芽期(6月) グリーン3号 速効性の肥料を施用
	中				三番茶摘採	7月中旬～下旬 二番茶摘採から35日後、1節程度上げて摘採し、秋芽伸育を良くする
	下	三番茶摘採期			最終摘採	7月末 最終摘採は7月末までに。充実した秋芽を確保する。
8	上				補完防除	最終摘採・整枝直後 輪斑病 カスミンボルドー 1000倍(30日)
	中	萌芽期	ウンカ、スリップス、 マダラカサハラハムシ ハマキムシ類	テッパン液剤…… 1000倍(3日)	土 壌 改 良	8月上旬～中旬 土壌分析に基づく土壌酸度の矯正、根の生育促進、施肥効率の向上
	下				秋肥1回目	最終摘採後 骨粉入りソイル茶配合
					補完防除	秋芽生育期(更新園) ハダニ、マダラカサハラハムシ、チャトゲ、コカクモン発生時 コテツフロアブル 2000倍(7日)
9	上	3～4葉期	炭そ病、網もち病、 もち病、新梢枯死症 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	ダコニール1000……1000倍(10日)混 インダーフロアブル 5000倍(7日) 用 ガンバ水溶剤…… 1500倍(14日) 用	堆肥・深耕	8月下旬～9月中旬 完熟牛ふん主体堆肥 10a当たり1ト以内 深耕を行い、土壌の通気性・透水性の改善
	中				秋肥2回目	9月上旬 銘茶秋月
	下				補完防除	秋芽4～5葉期 網もち病常発園 クプロシールド 1000倍(3日)
					液 肥	9月中旬 液肥施用
10	上				補完防除	9月下旬 ハマキムシ類、シャクトリムシ、ホソガ、チャトゲ多発時 ディアナSC 5000倍(摘採前日)
	中				秋肥3回目	10月上旬 茶のきすな秋1号
	下				秋冬番茶摘採	10月上旬～中旬 秋の本整枝時期を考慮して計画的に 秋整枝が遅れないように 平均気温が20℃以下になった時期(10月15日を日処に終える)
11	全	秋冬番茶摘採期			秋 整 枝	10月上旬～中旬 深さに注意し、葉層は8cm以上確保する 中晩生品種:10月10日前後、早生品種:10月15日前後までに
12	全				防霜施設点検	10月末～2月 防霜施設の保守・点検・修理
					秋冬期防霜	初霜期～12月中旬 早生、更新園を中心に、12月20日頃まで

米 国 輸 出 向 け 防 除						
月別	旬別	病 害 虫 基 幹 防 除			重 点 作 業	
		防除時期	病害虫名	薬剤と濃度、使用日数	作業名	作業時期
1	全					
	上					
2	中					
	下					
3	上	上旬～中旬	カンザワハダニのみ サビダニ混発	ハロックフロアブル…… 2000倍(14日) ダニゲッターフロアブル… 2000倍(7日)		
	中					
4	上					
	中	一番茶摘採期				
5	上	クワシロ第一世代 ふ化最盛期	クワシロカイガラムシ チャトゲコナジラミ	アブロードエースフロアブル 1000倍(14日) ※チャトゲのみ防除の場合は据刈りを行い、 10a当400%散布(ダニ噴口)		
	中	ハマキ虫類第一世代 幼虫発生期	ハマキムシ類	ハマキ天敵…… 2000倍(前日) ※展着剤加用		
	下	萌芽～1葉期	炭そ病、もち病 ウンカ、スリップス	ムッシュボルドーDF…… 500倍(7日)混 ウララDF …… 1000倍(7日) 用		
6	上	二番茶摘採期				
	中					
	下	萌芽～1葉期	ウンカ、スリップス	スタークル顆粒水溶剤 2000倍(7日)		
7	上					
	中	三番茶摘採期				
	下					
8	上	最終摘採直後	輪斑病	カスミンボルドー…… 1000倍(30日)		
	中	萌芽～1葉期	炭そ病、もち病、 新梢枯死症 ウンカ、スリップス、 マダラカサハラハムシ ハマキムシ類	フロンサイドSC……2000倍(14日) 混 テッパン液剤…… 1000倍(3日) 用		
	下	3～4葉期	炭そ病、網もち病、 もち病 ウンカ、スリップス	インダーフロアブル… 5000倍(7日) 混 コルト顆粒水溶剤… 2000倍(7日) 用		
9	上					
	中	4～5葉期	網もち病(常発園)	クプロシールド…… 1000倍(3日)		
10	上					
	下	下旬	ハマキムシ類、 シャクガ類、ホソガ、 チャトゲ多発時	ディアナSC…… 5000倍(前日)		
11	全	秋冬番茶摘採期				
12	全	秋冬番茶摘採期				

※点線囲みは補完防除

米 国 輸 出 向 け 薬 剤			
殺虫剤	アクタラ顆粒水溶剤	サムコルフロアブル10	デルフィン顆粒水溶剤
	アグリメック	除虫菊乳剤3	トアロー水溶剤CT
	アタックオイル	スタークル顆粒水溶剤(アルバリン)	ハチハチ乳剤
	アブロード系(3剤)	スピノエースフロアブル	ハーベストオイル
	ウララDF	ゼンターリ顆粒水溶剤	ハマキコンN
	エクシレルSE	ダニゲッターフロアブル	ハマキ天敵
	エスマルクDF	ダニサラバフロアブル	パロックフロアブル
	オマイト乳剤	ダントツ水溶剤	ファルコンフロアブル
	カネマイトフロアブル	チューリサイド水溶剤	ブルーMC
	キラップフロアブル	チューンアップ顆粒水溶剤	ボタニガードES
殺菌剤	コテツフロアブル	ディアナSC	モスピラン系(3剤)
	コルト顆粒水溶剤	テッパン液剤	レビクリーンDF
	サブリーナフロアブル	テルスター系(2剤)	
	ICボルドー-66D	クプロシールド	フリンフロアブル25
	Zボルドー	コサイド3000	フロンサイドSC
	アミスター-20フロアブル	コサイドボルドー	ヘニー水溶剤
除草剤	インダーフロアブル	サンボルドー	ボルドー水溶剤
	カスミンボルドー(カップリン水溶剤)	ドイツボルドーA	ムッシュボルドーDF
	キュプロフィックス40	ドイツボルドーDF	
	クブラビットホルテ	フジローフロアブル	
除草剤	タッチダウンIQ	ラウンドアップ	ラウンドアップマックスロード

本県奨励品種で防除が必要な病害

品種名	病害名	炭そ病	もち病	網もち病	輪斑病	赤焼病
くりたわせ						
ゆたかみどり						
さえみどり						
あさつゆ						
あさのか						
やぶきた						
はるもえぎ						
かなやみどり						
おくみどり						
はるみどり						

必須防除…○ 必要に応じて防除…△

農薬使用上の注意点

1. 農薬の使用基準(適用作物、希釈倍数、使用時期、使用総回数)を守る。
なお、本表の記載内容は、予告無しに変更される場合がありますので、散布時には必ずラベルを確認するとともに注意事項をよく読む。
2. 使用回数は、摘採後から次の摘採までの使用回数で、秋整枝や中切りなどの更新は摘採と見なす。
3. 同じ農薬・系統は、連用を避け、できる限り年1回使用とする。
4. 風向き等を考慮し、周辺地域への飛散防止を徹底する。
5. 混用の順番は、①展着剤→②乳剤→③水溶剤

施肥資材使用の注意点

- 出所のはっきりしない堆肥及び施肥資材は使用しない。
- 新植・改植の苗導入の際は必ず、技術員へ相談を。

乗用型管理機械取り扱い上の注意

- トレーラー及び運搬車を車道、歩道上に放置しない。
- 移動の際は、通行に十分な配慮を行う。
- 枕地を3m程度設け、一般道路での旋回をしない。

お知らせ旗の取り組みの徹底

- 摘採10日前にお知らせ旗を設置し、摘採後はすみやかに片づける。

○生産履歴の記帳は正確に。 ○経営改善のため第三者認証に取り組みましょう。 ○スプリンクラー使用時は、道路へ水が飛散しないように注意する。